

【著者・訳者紹介】

藤木秀朗 FUJIKI Hideaki

名古屋大学大学院文学研究科
映像文化

『増殖するヘルソナー——映画スターダムの成立と日本近代』名古屋大学出版会、2007年（ハーバード大学アジアセンターより改訂英語版近刊）／『観客へのアプローチ』（編著）森話社、2011年／'Movie Advertisements and the Formation of a New Visual Environment in Interwar Japan', *Japan Forum*, forthcoming.

高峽 GAO Xia

名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程
日本近代文学・中日比較文学

『人力車の北京——『駱駝祥子』と都市交通』『野草』第83号、中国文芸研究会、2009年2月／『描かれた上海の人力車夫——『黄包车』の図像とテキスト』『野草』第86号、中国文芸研究会、2010年8月

星野幸代 HOSHINO Yukiyo

名古屋大学大学院国際言語文化研究科
中国近現代文学・台湾映画・中国パレエ

『魯迅『ピアズリー画選』小序』の成立——シモンズ、ジャクソンの影響を中心に』『比較文学』第51巻、日本比較文学会、2009年／『台湾文化の現在 響きあう日本と台湾』（共編著）あるむ出版、2010年／『朱天心〈古都〉——個人記憶と集まり記憶の対話』崔琦訳『感官素材と人性辯證国際學術研討會論文集』成功大學中文系主編、國立台湾文学館、2010年

伊藤麻衣子 ITO Maiko

名古屋大学大学院文学研究科博士前期課程
映画史・映像文化

格清久美子 KAKUSE Kumiko

愛知教育大学・中部大学他非常勤講師
日本近代文学・植民地文学

『十二年の手紙』——戦時下における愛と抵抗の記録』『国文学解釈と鑑賞 特集：宮本百合子の新しさ』2006年4月号／『讓原昌子『朔北の闘い』考——樺太の現実と生い立ちの「記録」、神谷忠孝、木村一信編』『(外地) 日本語文化論』世界思想社、2007年3月／編著・解説『讓原昌子作品集』（川村漢監修）『日本植民地文学精選集』第二期、ゆまに書房、2001年9月

川口潤 KAWAGUCHI Jun

名古屋大学大学院環境学研究所
認知科学・記憶心理学

『メタ記憶のコントロール機能』清水寛之編『メタ記憶——記憶のモニタリングとコントロール』北大路書房、2009年／Direct versus indirect processing changes the influence of color in natural scene categorization. Otsuka, S. & Kawaguchi, J. *Attention, Perception, and Psychophysics*, vol. 71, 2009. / Decreased effectiveness of a focused-distraction strategy in dysphoric individuals. Hattori, Y. & Kawaguchi, J. *Applied Cognitive Psychology*, vol. 24, 2010.

リビット水田堯 LIPPIT Mizuta Akira

南カルフォルニア大学映画芸術研究科
批評研究・思想・映画研究

Electric Animal: Toward a Rhetoric of Wildlife. University of Minnesota Press, 2000. / *Atomic Light (Shadow Optics)*. University of Minnesota Press, 2005. / 『映画の三次元——複製、ミメシス、消滅』『ecce 1』2号、森話社、2010年

三原芳秋 MIHARA Yoshiaki

同志社大学言語文化教育研究センター
英文学

『Metokoたちの帝国——T. S. エリオット、西田幾多郎、崔載瑞』『社会科学』第40巻第4号、同志社大学人文科学研究科、2011年／（共著）『전쟁하는 신민, 식민지의 국민문화 [戦争する臣民, 植民地の国民文化]』渡辺直紀他編、ソミョン出版、2010年／（訳書）エドワード・W・サイード『故国喪失についての省察（1）』（共訳）みすず書房、2006年

水野勝仁 MIZUNO Masanori

名古屋芸術大学デザイン学部非常勤講師
メディアアート・インターフェイス論

『デスクトップにおけるアイコンとその背後に存在する言語との関係』『社会情報学研究』第11巻2号、日本社会情報学会（JSIS）、2007年／『インターフェイス再考——マウスとデスクトップメタファーとを結ぶヒトの身体』『社会情報学研究』第13巻1号、日本社会情報学会（JSIS）、2009年／『あいだを移行する「↑」——エキソニモ（断末魔ウス）、〈↑〉におけるカーソルの諸相』『映像学』第85号、日本映像学会、2010年

水嶋一憲 MIZUSHIMA Kazunori

大阪産業大学経済学部
文化研究・社会思想史

『グローバル化と植民地主義』（共著）、人文書院、2009年／『アジアのメディア文化と社会変容』（共著）、ナカニシヤ出版、2008年／（訳書）アントニオ・ネグリ+マイケル・ハート『〈帝国〉』（共訳）、以文社、2003年

諸岡知徳 MOROOKA Tomonori

名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程
日本近現代文学・日本近代文化

『新聞小説の境界——西遠地方／一九〇〇年代』『〈東海〉を読む 近代空間と文学』風媒社、2009年／『〈父〉の危機という構造——「家族会議」の時代』『横光利一研究』第7号、2009年／『挿絵のなかの女性イメージ——1930年代新聞通俗小説の底流』『神戸山手短期大学紀要』第53号、2010年

大野光明 ÔNO Mitsuaki

立命館大学先端総合学術研究科博士課程一貫
社会運動論・沖縄社会思想史

『脱コンテクスト化／再コンテクスト化を抗う力に変えて——沖縄をめぐる〈復帰〉の力学とグローバリゼーション』『立命館言語文化研究』第15巻4号、立命館大学国際言語文化研究所、2004年／『越境する運動と変容する主体——ジャテックの脱走兵支援運動・米軍解体運動を中心に』『Core Ethics』vol.4、立命館大学大学院先端総合学術研究科、2008年／『「沖縄との連帯」に現われるナショナルリズムとその批判』『情況』11月号、情況出版、2010年

大崎晴美 ŌSAKI Harumi

マギル大学大学院東アジア研究科
哲学・思想

「力」の無神論——初期ドゥルーズにおけるスピノザとニーチェの同一性の基盤』『現代思想』第30号10巻、青土社、2002年／“Killing Oneself, Killing the Father: On Deleuze's Suicide in Comparison with Blanchot's Notion of Death,” *Literature and Theology*, Vol. 21, No. 1, Oxford University Press, 2008／(翻訳) トーマス・ラマール『フル・リミテッド・アニメーション』『日本映画は生きている』第6巻 アニメは越境する』黒沢清、吉見俊哉、四方田犬彦、李鳳宇編、岩波書店、2010年

大竹瑞穂 ŌTAKE Mizuho

名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程
映画史・映像文化史

『北海道の和人移住者の視点から見た『北方に鐘が鳴る』』『バンドライ』8号、2009年

朴貞蘭 PARK Jeongran

名古屋大学大学院博士研究員
日韓比較教育・教科書研究

『戦後初期国語教科書研究——日韓中学校教科書における「連続性」の問題』名古屋大学大学院文学研究科(博士学位論文)、2010年6月／『記憶と忘却』装置としての戦後教育』韓国東北歴史財団次世代研究人力養成事業・研究結果報告書、2009年／(訳書)イ・ハンジョン他『日本人作家たちがみた朝鮮』(共訳)、ソミョン出版(ソウル)、2009年

四方幸子 SHIKATA Yukiko

メディア芸術コンソーシアム構築事業企画ディレクター、東京造形大学特任教授、多摩美術大学客員教授、IAMAS非常勤講師
情報環境とアートの創造的関係を横断的に研究、並行して数々の展覧会やプロジェクトをキュレーション・アートラボ、森美術館、NTT ICCのキュレーター、またインディペンデントで実現。主なものに「アモダール・サスペンション」『polar m』(山口情報芸術センター)、『MobLab』(モブラボ実行委員会)、『オープン・ネイチャー』『ミッションG:地球を知覚せよ!』(ICC)など。Prix Ars Electronica、文化庁メディア芸術祭審査員ほか国内外での審査員を歴任。

杉淵洋一 SUGIBUCHI Yōichi

名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程
日本近代文学・比較文学

『フランス語版『或る女(前編)』(一九二六)』『有島武郎研究 第十二号』有島武郎研究会編、2009年／『草の葉会』と『ウイソン倶楽部』の有島武郎と鶴見祐輔』『日本比較文学会東京支部研究報告 第七号』日本比較文学会東京支部編、2010年／『ヨーロッパ体験が開示する石川三四郎の人的ネットワーク』『社会文学 第三十三号』日本社会文学会編、2011年

杉田智美 SUGITA Tomomi

名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程
日本近現代文学・文化

『水際のモダン——身体と欲望の劇場へ』『スポーツする文学——1920-30年代の文化誌学』疋田雅昭・日比嘉高・日高佳紀編、青弓社、2009年／『管理される「老い」／監視される「主婦」——1960年代、リブ以前の主婦介護』『介護小説』の風景』佐々木亜紀子、米村みゆき編、森話社、2008年／『〈遺稿集〉の力学——有島武郎編『松むし』と小説の言葉と』『有島武郎研究』第9号、右文書院、2006年3月

竹内瑞穂 TAKEUCHI Mizuho

愛知淑徳大学文学部
日本近代文学・日本近代文化史

『「民衆」からの逸脱——大正期「変態」概念・天才論の流行と文壇人』『日本文学』56巻9号、2007年9月／『近代社会の(逸脱者)たち——大正期日本の雑誌投稿からみる男性同性愛者の主体化』『Gender and Sexuality』03号、2008年3月／『大衆化をめぐる(交通)——井東憲『上海夜話』におけるプロレタリア探偵小説の試み』『日本文学』58巻11号、2009年11月

坪井秀人 TSUBOI Hideto

名古屋大学大学院文学研究科
日本近代文学・文化史

『声の祝祭——日本近代詩と戦争』名古屋大学出版会、1997年／『戦争の記憶をさかのぼる』筑摩書房、2005年／『感覚の近代——声・身体・表象』名古屋大学出版会、2006年

生方智子 UBUKATA Tomoko

立正大学文学部
日本近代文学

『精神分析以前——無意識の日本近代文学』翰林書房、2009年／『受動化する身体、見出される風景——漱石、谷崎、乱歩における「遊民」たち』、ハルオ・シラネ、藤井貞和、松井健児編『日本文学からの文学理論』笠間書院、2009年／『愛を告げる者——萩尾望都の作品における(鏡)の機能』飯田祐子・島村輝・高橋修・中山昭彦編『少女少年のポリティクス』青弓社、2009年

ミツヨ・ワダ・マルシアーノ Mitsuyo WADA-MARCIANO

カールトン大学芸術文化研究科映画学科／国際日本文化研究センター研究員(2010-2011)
映画研究・映像文化史

『ニッポン・モダン——日本映画1920-30年代』名古屋大学出版会、2009年(ハワイ大学出版局より英語版、2008年)／『デジタル時代の日本映画——新しい映画のために』名古屋大学出版会、2010年(ハワイ大学出版局より英語版、2011年)／*Horror to the Extreme: Changing Boundaries in Asian Cinema*. Hong Kong University Press, 2009(共編著)

山田桃子 YAMADA Momoko

北海道大学大学院文学研究科博士後期課程
日本近現代文学・文化論

『内田百閒「サラサーテの盤」論——モダニティ・知覚・主体』『藤女子大学国文学雑誌』80号、2009年3月／『内田百閒作品と知覚の変容』——『大尉殺し』(1927)』『層——映像と表現』第4号、北海道大学大学院文学研究科映像・表現文化論講座、2011年3月(近刊)

張鈴 ZHANG Ling

名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程
近代文学・文化